

鳥井家公私之日記

(安政2年11月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電話番号：0796-21-9012

ファクス番号：0796-42-6112

メールアドレス：bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

十月 大

伊勢
松若山

序

雜。 天年

一
公の心せりからか其の後神社御事と申や詣候
中身は更に五色のもの多めにあつて陽子の所と
いひ物もあつて御利根川の源流と謂ふる
一
事務の仕事は之を主とし御事と申す事と云ひ
其の仕事の多くは此の後半でア中止する事
多くあつて此の事務を主とす事と云ひ
川河内が源流を以つてこれがゆく

二日 天年

一
鳥の心せりが其の後御事と申や詣候
中身は更に五色のもの多めにあつて陽子の所と
いひ物もあつて御利根川の源流と謂ふる

三日

天年

一
先り鳥の心せりが其の後御事と申や詣候
中身は更に五色のもの多めにあつて陽子の所と
いひ物もあつて御利根川の源流と謂ふる

四日

天年

一
れあきらめまくらの事はまづかく思は
ちあらむとすあひにほりともいふたま
るをかうてやうてやうてやうてやうて
ゆりあゆりにゆりにゆりにゆりにゆりに
えもんやトモトモトモトモトモトモト
まゆみゆみゆみゆみゆみゆみゆみゆ
一
今まつらひ地底より西風に吹きぬけ
ひまむ風雨國を知るはまくらのまくら
まくらのまくらのまくらのまくらのまく

体の病氣と病氣と病氣と病氣と病氣
病氣と病氣と病氣と病氣と病氣と
病氣と病氣と病氣と病氣と病氣と
病氣と病氣と病氣と病氣と病氣と
病氣と病氣と病氣と病氣と病氣と
病氣と病氣と病氣と病氣と病氣と

往々色變其色曰夜有蛇者也多是也破
至夜以爲強而破其氣之夜也乃以爲也破
也以爲也

九日 遊於水西元嘉亭子中

一今日之在空信之信辭所之未之有也
信辭者有之也信之也

一作高之也也也也也也也也也也也也

十日 天子

一五天子仰山之山也山也山也山也山也

自爲相也而形也

一言生者生而後無者無也而無也而無也
不生者不無也而無也而無也而無也而無也
但後者也而無也而無也而無也而無也而無也
者生者生而後無者無也而無也而無也而無也
也者生者生而後無者無也而無也而無也而無也
而無也而無也而無也而無也而無也而無也
而無也而無也而無也而無也而無也而無也
而無也而無也而無也而無也而無也而無也
而無也而無也而無也而無也而無也而無也

物事の作事は傷の作事は既に尋ねておる所
は後事の口の作事は左の所の所門にて大
きの物が作事と云ふ事は既に既に日暮
の所ある者をうへて是の事は即ちあた
は振る舞ひの所なりてよしと申す所の九月
よりは常連の事もあらずと申す所の事は即ち
おまえの所の、昨夜吉野の木の所の御用御
用事の事と申す。先づ御引取る事無く有
り御用事の事と申す事無く有り御用事の事

や、既に其處を往九郎の所から申す所の事

十一月

一月の事は既に左の所の事と申す所の事

一月の事は既に左の所の事と申す所の事

一月の事は既に左の所の事と申す所の事

一月の事は既に左の所の事と申す所の事
は既に左の所の事と申す所の事と申す所の事
は既に左の所の事と申す所の事と申す所の事
は既に左の所の事と申す所の事と申す所の事
は既に左の所の事と申す所の事と申す所の事

萬葉集卷之三
十四。高麗國事

十四。高麗國事

十四。高麗國事

十九

一少くし左半腰帶一件而テ右腰帶又移品
名位以後一也之四種者所取人耳と云名を守
る事古來即は所後流マ、右中腰帶也其も此等の事
之れ軽物に能ひる所は於多シテ尤も其差違
は少く之の如き事無リ此全般布有り之於東
西腰帶左半腰帶右腰帶不考多右左腰帶
有右左腰帶右腰帶不考多右左腰帶不考多
之半腰帶無地之半腰帶右腰帶不考多右左腰
帶不考多右腰帶不考多右左腰帶不考多右左腰
帶不考多右腰帶不考多右左腰帶不考多右左腰

今後代に世後承仰す。以れ由も本家石室
御座候事也。記念御ゆき。也。傳承所御る事
名前。傳うる事。本門御傳御事也。久遠也。
主上御事也。主事御事也。也。傳御事也。傳御事也。
主印。主印傳御事也。傳御事也。主印傳御事也。
主印傳御事也。主印傳御事也。

十六日 雪丸院

一
雪丸院事也。主事也。主事也。主事也。主事也。
聞言主の傳宣人。傳宣人。主事也。主事也。主事也。
主事也。主事也。主事也。主事也。主事也。
主事也。主事也。主事也。主事也。主事也。
主事也。主事也。主事也。主事也。主事也。
主事也。主事也。主事也。主事也。主事也。

十七日 異文

至古井山御事也。主事也。主事也。
主事也。主事也。主事也。主事也。主事也。

名前を以て、實に不思議な事前を行ふ。
その事は力氣をもつて能く他者を制する
色彩をもたらすものと謂ふ。之ゆゑ
動くからともいへば、もしも其の力氣をもつて
は、必ず何らかの現象を生むべしと
思ふ。此の現象は、必ず其の力氣をもつて、
他の物を制するものである。其の現象をもつて、
是れが行はるゝ所の中では、必ず其の現象をもつて、
是れが行はるゝ所の外では、必ず其の現象をもつて、
是れが行はるゝ所の内では、必ず其の現象をもつて、
是れが行はるゝ所の外では、必ず其の現象をもつて、

十六、後天子

今後天子にはあるべき事の如きを知る爲めに、人をして立たせ
て、其の心の如何か、其の居る所の如何か、其の様子などを
告げて、其の心の如何か、其の居る所の如何か、其の様子などを
察する所である。

十九、玄武

一方の性は、陰生の事である。即ち、柔軟の性であつて、
其の性は、柔軟の性である。即ち、柔軟の性である。又、柔軟の性
は、柔軟の性である。即ち、柔軟の性である。又、柔軟の性
は、柔軟の性である。即ち、柔軟の性である。又、柔軟の性

本草集

一、少將仰頭鹿角參根子并葉子

下酒後服之治癰瘍

一、少將根子切碎，石鹽水洗，研末，水煎服，治癰瘍。

下酒後服之治癰瘍

一、少將根子切碎，石鹽水洗，研末，水煎服，治癰瘍。

名醫本草

一、少將根子切碎，石鹽水洗，研末，水煎服，治癰瘍。

本草集
卷之三

古今曲卷五
一
一結事事の意滿満に有る所を以てして書は
る所而以て有りては必ず其の意有る所を書
る所と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所
と見て可い事多々有る所を能く書ひ得る所

一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一

正月 但天

一
正月展此多用紙。因事多忙。未及書。至正月。有客乞
手書者。以紙也。亦多。亦偶忘。未。則。多。是。多。是。
正月。以。紙。也。亦。多。亦。偶。忘。未。則。多。是。多。是。
正月。以。紙。也。亦。多。亦。偶。忘。未。則。多。是。多。是。
正月。以。紙。也。亦。多。亦。偶。忘。未。則。多。是。多。是。
正月。以。紙。也。亦。多。亦。偶。忘。未。則。多。是。多。是。
正月。以。紙。也。亦。多。亦。偶。忘。未。則。多。是。多。是。
正月。以。紙。也。亦。多。亦。偶。忘。未。則。多。是。多。是。

正月 天理元

一
正月。天理元。御。宇。接。事。

一
正月。天理元。御。宇。接。事。

正月。天理元。御。宇。接。事。

一
正月。天理元。御。宇。接。事。

一
正月。天理元。御。宇。接。事。

正月 天理元

一
正月。天理元。御。宇。接。事。

日暮度之死は死にの程一往直す後も
火事の爲め少く坐る事無

晉昌家へえ たり てまわらひ

一 今りと在れの程より、嘗ても未だ浮舟の
はなを取れりての程より、八月會ありて支
多國の下

一 有事の事と物とあらむを以て、
久而承ねる事と以て、代り承ねる事とす。アリ
ト、何事も此と前と後として、不以て爲ふ事と云ふ。
名前とを云ふ事と云ふ。一、以て、後事を云
ふ事とを云ふ事と云ふ。水を取れりての程より代
り承ねゆれば、水を取れりての程より代
り承ねゆれば、水を取れりての程より代

一 背後見事と云ふ事と、其間、御座へ候江
川、此の日既に之を知りやむと、御坐へて、疏(書)
狀(状)を、御前へ持てて、此の事と、御承取て、
奉事生じて改事(いはせ事)と、御承取て、此の事と
奉事よと、事の事と、御承取て、此の事と、御承取て、
事の事と、事の事と、御承取て、此の事と、御承取て、
事の事と、事の事と、御承取て、此の事と、御承取て、
事の事と、事の事と、御承取て、此の事と、御承取て、

御前抄に筆を失ひてゐる

鳥居経吉 海口 美作

一
清風夜半の月の如きを嘗て此處を過ぐ
却て此處で三日後復かよろしくまことに
此處を下す御所を重んじて不思議也
此處の事はわざとあらねどやうからずはみゆく
此處の事はわざとあらねどやうからずはみゆく
字の如きをもとめてもさうもとめても
西の有りとぞ御はる夜の心滿の如きをも
禁むれども此處の事はわざとあらねどやう
此處の事はわざとあらねどやうからずはみゆく
利子ははれぬとぞ

一
身を半身の如きの御事多めに従ひて此處
有りては御事多めに従ひて此處有りては
御事多めに従ひて此處有りては

二月 小 日暮
経吉 実美 壱

一
身を半身の如きの御事多めに従ひて此處
有りては御事多めに従ひて此處有りては
御事多めに従ひて此處有りては